

# 日刊 勤労千葉

82.7.6

No. 1088

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）四三三二七二〇七

# 佐倉支部で 合理化をはね返せ 職場集会

## ＝職場に築いた自らの闘いで＝



「57・11」反合への肉争モデル拠点として全員の奮闘を！（あいさつに立つ、堀口佐倉支部長、82.6.30）

6月30日、佐倉支部職場集会是講習室に80名の組合員が参加して開催された。集会ではこの向の既得権剥奪攻撃に加え、「57・11」でさらに徹底した権利剥奪と合理化を狙う当局に対し、組合員一人一人の職場からの抵抗闘争によって反撃していくことを確認した。

### ふりかかる火の粉は、自分の叩いで ふりはらおう 堀口支部長あいさつ

「今日の軍事大国化、三里塚二期攻撃と国鉄労働運動破壊攻撃に反撃する体制をつくり上げるための職場集会にしたい」との、宮内執行委員の司会のもと、まず堀口支部長からのあいさつを受けた。

津田沼・幕張と共に、長期非協力の職場抵抗闘争のモデル拠点としての佐倉支部の集会には、本部より8名の執行部が参加した。代表して関川委員長が「今の状況は一九四〇年、総同盟を解散し産業報国会を結成して太平洋戦争に突入した時と、全く同じ状況にある。そうさせない為にはどうしたらよいか。勤労本部『革マル分』子は『起って反撃ではないか、地べたにはって妥協』とか『赤字だから攻撃さ』れる。だからもついで収入をあげれば合理化も労組攻撃もなくなる』などトントデモない論理を持ち出してはいるが、それなら労組組合など無くても良いではないか。今日の労働条件、諸手当、既得権は自らの血と汗でマル生と対決してかちとってきたものだ。三里塚一、国鉄を基軸に、権力当局、勤労本部の一体化した攻撃をうち砕いていこう。佐倉支部の仲間には先頭で頑張ることを「欲しい」とありさつし、激励した。

続いて水野本部副委員長から「自民党財界マヌコミは国鉄の赤字がヤミカラで生み出されたかのような宣伝を行っているが、オニ臨調の『民営・分割』で赤字の解消ができるのか。できない。彼らが一番の狙いは、国鉄労働者の志気をくじき、労働組合を潰えなくするところにある。国鉄の『正すべきは正す』とか勤労本部の『働き度』を高めるなどは敵の攻撃の本質を見抜けていない全面屈服路線である。勤労千葉は、三里塚と国鉄を基軸にすえて、反動鋭木内閣を徹底的に追いつめる中で、この攻撃に対決して勝ち進んでゆく。そのためにも組合員一人一人の奥力を出しきって、全支部で粘り強い非協力闘争をつみ上げ、職場支配権をガツンと労働者の側ににぎり切つて叩こう。57・11に射程をありせよから秋を準備していこう」と基本的な叩いの方向性を提起した。

### 「二期阻止」57・11反合を基軸に、夏、秋を叩こう！

最後に山口本部副委員長より「57・11」をめぐる状況の説明をうけ、討論を行った。そして7・4三里塚への決起、全職場での討論つみ上げを確認し、団結がハコで終了した。

### 戦争前夜の状況 関川委員長 長あいさつ

叩かれは、働く者の基本権・既得権はきっぱりと守りぬき、団結して対決し、労働者の風上にも置けぬ卑劣なタレコミや告訴などによる組織破壊攻撃を粉碎して、「う」と決意を表明した。

### 全支部でねばり強い非協力闘争を叩こう 水野副委員長より提起